

中央大学 2025 年度特別入試 【解答・解答例】

学部・試験方式	総合政策学部・外国人留学生入試
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する解答・解答例には、別解がある場合があります。

【解答・解答例】

1. 問題文が示すように、日本の大学の経営難の背景には、人口減少、特に若年層の縮小がある。これにより授業料収入を主とする従来の収益構造が成立しなくなっていることが、本問題の根幹である。したがって、この状況を打破するには、国内の若年人口に依存する従来の収益構造を抜本的に見直す必要がある。

有力な打開策の一つは、外国人留学生の積極的な受け入れが挙げられる。アメリカやヨーロッパの大学では、留学生専用のサポート体制、奨学金制度、さらには多言語での授業提供がすでに実施され、その結果、収益基盤の多角化を達成している。また、近年のコロナ禍を契機に世界中で進展したオンライン教育の普及も、大学の新たな収入源として考えられる。アメリカ、オーストラリア、北欧諸国では、既存のキャンパス型授業と並行して、オンライン講座や社会人向けプログラムが急速に普及した。これにより、地理的・時間的制約を克服し、国内外の受講者を取り込む仕組みが整備され、初期投資を抑えた効率的な運営が可能となっている。

加えて、少子高齢化の進行に伴い、新たな受講者層として高齢者の学び直しが注目されている。アメリカのコミュニティカレッジやヨーロッパの一部地域では、退職後や再就職を見据えた生涯学習講座が提供され、趣味や健康維持、スキルアップを目的とした受講が盛んである。これらの講座は、既存のオンライン教育技術や施設を利用することで、低コストで実施可能なため、大学にとって新たな収益モデルとなり得る。

さらに、授業料収入以外に財源を広げることも肝要である。産学連携は、企業との共同研究や技術移転を通じた収入多角化の有力な戦略である。ヨーロッパやアメリカの大学では、企業からの研究助成金や共同プロジェクトが大学経営を支え、経営安定化に結びついている。

このように、少子高齢化に直面する大学経営においては、従来の収益構造を根本的に見直し、より広い層を対象とした収益多角化が必要である。上記はいずれも十分な事例が存在し、日本の大学でも実行可能性の高い取り組みである。こうした多角的かつ柔軟な戦略の採用こそが、日本の大学経営の安定化と持続的発展への鍵であると考えられる。

2. グローバル化と AI 技術の進展は、国境を越えた情報交換や国際交流を促進する一方で、各地域の伝統、言語、慣習などの文化的アイデンティティに対し、均質化や希薄化のリスクをもたらす。具体的には、SNS や自動翻訳システムの普及により、共通言語や標準化された価値観が強調され、ローカルな文化が背景に埋もれがちとなる。また、AI によるコンテンツ生成は、伝統芸能や芸術作品の模倣・大量生産を引き起こし、各地域固有の独自性が失われる可能性がある。結果として、文化的多様性が損なわれ、地域ごとに特色ある文化が均一なパターンに収斂するリスクが高まるとい

える。

しかしながら、グローバル化と AI 技術は、リスクを孕むと同時に文化保存や伝承のための新たな手法も提供している。たとえば、各地域の伝統芸能や民俗資料を映像、文書、音声などにてデジタルアーカイブ化し、オンラインプラットフォーム上で多言語発信する取り組みが、既に欧州やアジアの一部地域で実施され、文化遺産の保全に寄与している。また、AI 技術を活用して、劣化した文化財の復元や、伝統技法の解析、新たな創作活動への応用も進められている。こうした取り組みは、過去の文化資産の価値再認識や次世代への伝承が促進につながるものである。

したがって、文化的アイデンティティの維持・発展を考えるのであれば、グローバル化や AI 技術による均質化や希薄化のリスクに対して、受動的に在るのではなく、その技術を活用して能動的に対応策を講ずることこそが、我々に今後求められる向き合い方であると私は考える。グローバル化も AI 技術の発展も、阻止することができるようなものではない。そうである以上、我々にできることは、均質化や希薄化は進む前提として、それにどう対処するかだけである。上記の通り、AI 技術の活用は、文化の保全や復元に対しても極めて有効である。従来手法では困難であった精緻な保存・再生を可能とするこのような技術の適用は、危機回避に留まらず、新たな文化創造や発信の原動力ともなり得る。新たな技術によって、今あるものが変わっていくことを嘆くのではなく、その環境や技術を活用して、どう保全・発展できるのかを考えることが、文化的アイデンティティを守り発展させる社会の実現に向けての着実な歩みとなるだろう。

中央大学 2025 年度特別入試 【解答（解答例）】

学部・試験方式	国際経営学部・外国人留学生入学試験【A方式】
科目	英語

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する解答・解答例には、別解がある場合があります。

【解答・解答例】

I.

(1)B (2)A (3)D (4)D (5)A (6)C (7)B (8)D (9)A (10)C

II.

Q1 (1)B (2)C (3)C (4)D (5)D (6)A (7)B (8)A (9)C (10)D

Q2 (11)B (12)B (13)A (14)B (15)A

III. Essay Writing

解答例：One place that left a lasting impression on me was a small café in Kyoto I found during my first month in Japan. It was hidden in a quiet alley, with soft jazz playing and messages from past visitors on the walls. The owner spoke to me warmly, even though my Japanese wasn't perfect. That moment made me feel less alone in a new country. It showed me how kindness can cross language barriers. Since then, I've felt more confident exploring Japan and more open to connecting with people, even in unfamiliar places. (99 words)

IV.

(1) 試訳：Sample translation: 仮にクリスマスプレゼントを贈ることの福祉効果を測るために、商業的価値という尺度が適切だとすれば、サンタクロースは敗者になるだろう。

(2) 解答例：クリスマスの経済学研究では、プレゼントの経済的価値が低く評価されることがあり、贈り手の支出に比べて非効率とされています。1993年の調査では、学生が受け取ったプレゼントを実際の価格より低く見積もる傾向が確認されました。この研究は、プレゼント交換が経済的損失を生むと結論づけましたが、プレゼントの本質は経済的価値ではなく、サプライズや感謝の気持ちにあると指摘されています。(182字)

以上